

日本鉄鋼協会記事

理事 会

第7回理事会 開催日：10月25日。出席者：佐野会長
他38名。

会議事項

1. 成型法委員会設置に関する件
補助金を受けて行なつた国内炭活用コークス化試験の残存設置の処理などの問題があるので国内炭活用コークス化試験委員会を廃して成型法委員会を設置することが適当かどうか役所との関係なども調べた上、次回にさらに協議することとなつた。
2. 鉄鋼生産設備能力算定方式の再検討依頼に関する件
係数を変更する必要がある、1年位の期間で調査してほしいとの依頼が通産省よりあつた。どの程度の規模でやるかなどは鉄鋼生産設備能力調査委員会で審議することに決定。
3. 昭和42年度講演大会に関する件
春季大会は42年4月5～7日東京大学で挙行。懇親会は4月5日単独開催。秋季大会は北海道大学の予定。
4. 金材研疲労引張大型試験機設置要望に関する件
上記の要望提出が承認された。

企画委員会

第6回委員会 開催日：10月24日。出席者：伊木委員長
他15名。

会議事項

1. 金属材料技術研究所に疲労、引張など大型試験機設置要望に関する件
河田金材研部長報告
疲労、引張など大型試験機設置に対し鉄鋼協会より口添えしてもらいたい旨の説明があり、検討するが、要望書は提出せず、田畑専務理事が口頭で側面援助することとなつた。
2. 大河内賞候補選定に関する件
「熔融メッキにおけるガスワイピング法の開発」
大浜侃君
「純酸素転炉の生産性向上」植山義久君
以上2件を推薦することに決定。
3. 会計分科会報告
大中主査より三井理事に主査をバトンタッチしたい旨申し出があり委員会として承認された。
4. アイソトープ放射線の産業利用に関する特別講演会後援に関する件。
後援に決定。
5. 第3回X線材料強度に関する討論会協賛に関する件
協賛に決定。

編集委員会

第2回運営委員会 開催日：11月22日。出席者：荒木委員長
他17名。

会議事項

1. 出版分科会、和文会誌分科会、欧文会誌分科会、講演大会分科会の編集の各分科会からの報告
2. 委員委嘱について
欧文会誌分科会委員として下記2氏を委嘱することに決定。
井形直弘君（東京大学工学部）
氏家信久君（石川島播磨重工業(株)技術研究所）
3. 寄稿規定を検討

現行の寄稿規程を検討の結果、和文会誌分科会にはかりさらに検討することになつた。

第9回和文会誌分科会 開催日：11月24日。出席者：
荒木主査他11名。

会議事項

1. 寄稿規程について
講演の方法、その他方針の変更により、現在の寄稿規程では不便をきたすようになつた。そこで現規程に追加および修正することになり、提出した案を検討、次回までにまとめることになつた。

第7回欧文会誌分科会 開催日：11月21日。出席者：
橋口主査他17名。

会議事項

1. Short Note の欄を新設することに決定。原稿の長さはいちおう 2000 語以内と規定された。
2. 5 論文を研究論文として依頼することに決定。
3. 本誌で用いられる脚注の書き方検討。
(1) 手紙が届く程度の著者の住所を記載する。
(2) 著者の肩書の要否については、次回分科会で審議する。
4. 審査結果を著者に伝える文書については次回分科会で審議することになつた。
5. 査読報告；掲載決定したもの3件、再審査となつたもの1件。
6. 新着原稿2件と依頼中論文4件の査読委員決定。
7. 各号別のページの要否については次回分科会で審議する。

資料委員会

第36回委員会 開催日：12月7日。出席者：草川委員長
他14名。

会議事項

1. 42年度予算の検討に当たつて
問題となつたのは整備費の点であり、これは主にアルバイト雇用に関して投資される。なお事務局内の資料担当者が少数のため42年度からはライブラリアンとして、また技術的面にも経験のある職員を1名採用してはどうかと意見があつたが、次回特別会

計担当者委員会提出の上決定。

2. 鉄連発行の資料月報に当協会の新着図書に記載させてもらうことに決定。
3. 鉄連資料室のイデオロギーについて
当鉄連では、鉄鋼一般経営に関するドキュメンテーションについて行なっている。また図書利用者に当たっては原則として閉架式である。

スエーデン鉄鋼協会デリゲーション来日

スエーデン鉄鋼協会の下記 1 行 7 名が 11 月 6 日来日した。1 行は製鉄各社の好意により 11 月 7 日から 11 月 25 日まで 3 週間にわたり、八幡製鉄(八幡・戸畑・光)、富士製鉄(室蘭)、川崎製鉄(千葉)、住友金属(和歌山)、日本鋼管(川崎・水江)、日本製鋼所(室蘭)、金材技研などを見学し、11 月 27 日多くの成果をおさめて帰国した。

Mr. E. Ameen	スラハマ製鉄前社長 Jernkontoret's 議長
Prof. R. Kiessling	ストックホルム金属研究所長
Mr. T. Krey	ポッホース製鉄製造部長
Mr. K. O. Svensson	ポッホース製鉄圧延部長
Mr. N. Bonthron	オクセロサンド製鉄技術部長
Dr. H. Hellberg	オクセロサンド製鉄研究所長
Mr. V. Notini	スエーデン鉄鋼協会調査部長

オランダ国立製鉄所から 7 氏が工場見学に来日

オランダ国立製鉄所の Mr. W. H. Wijdeveld をはじめ Mr. G. A. C. van der Linden, Mr. A. A. van der Poel, Mr. W. F. Slicker の 4 氏が 10 月 9 日来日し、2 週間にわたり本協会を通じて八幡製鉄(戸畑・堺)、日本鋼管(福山)、東海製鉄、川崎製鉄(千葉・水島)などを見学して 10 月 24 日離日した。

また Mr. D. G. Nijman (Director of Planning and Engineering) をはじめ、Mr. P. N. Jonker, Mr. A. K. Vroege の 3 氏が 11 月 5 日来日した。一行は八幡製鉄(堺)、日本鋼管(福山)、東海製鉄、神戸製鋼所(神戸)などを見学して帰国の途についた。

英国ドルマンロング社技術者来日

ドルマンロング社の製鉄部長 Mr. A. T. Ledgard をはじめとする Mr. D. Rist, Mr. W. H. King の 3 氏が 10 月 14 日来日し、26 日間にわたり八幡製鉄(堺)、住友金属(和歌山)、川崎製鉄(千葉)、日本鋼管(川崎・水江)、東海製鉄を見学し、工場見学にあたって終始好意的にご配慮下さった製鉄各社に謝意を表しつつ 11 月 9 日離日した。

共同研究会 製鉄部会

第 29 回部会 開催日：9 月 26, 27 日。出席者：林部会長他 144 名。
会議事項

1. 講演
(1) 熱割れ鉱石の使用試験について
富士製鉄室蘭 田口敏夫

(2) 焼結原料の管理について

日本鋼管水江 八浪一温

2. 共通議題
(1) 装入物の粒度について
(2) 羽口(通常羽口、滓羽口)破損について
3. その他

条 鋼 部 会

大形分科会

第 5 回分科会 開催日：11 月 15, 16 日。出席者：中島主査他 37 名。

会議事項

1. 矯正作業の現状と問題点について。
提出資料 9
矯正能力の増加対策に関するもの、成品の品質上の問題に関するもの、その他 2, 3 について、検討実施事項が報告された。
2. ロール原単位の現状と問題点について
提出資料 9
ロール材質の変更、ロール管理方式の変更などによりロール原単位が低下された事を報告。
3. 各工場で特に問題として検討および実施している事項について
提出資料 9
加熱炉燃料原単位に関するもの 2 件、能率向上に関するもの 2 件、歩留向上に関するもの 2 件、その他について、検討事項および実施結果が報告された。

中小形分科会

第 21 回分科会 開催日：11 月 7, 8 日。出席者：涌島主査他 88 名。

会議事項

1. 加熱炉の現状と改造点
現有加熱炉の設備仕様、概略図、最近 2 年間における主なる改造点とその効果および今後の問題点につき各社から資料提出、討議が行なわれた。改善すべき点としてはスキッド寿命の延長がある。
2. 型替、組替の合理化
型替、組替作業について 1 カ月の頻度と合計時間、1 回当たりの所要時間、実施の時期、作業方法および最近 1 年間における合理化対策とその効果、今後の問題につき各社から資料提出、討議が行なわれた。
3. 自由研究としては種々の問題につき多数資料が提出された。住金小倉からはスタンド数の少ない工場で細物サイズの圧延を可能とするため、ダブルレピーター方式採用の報告があつた。

線材分科会

第 23 回分科会 開催日：11 月 21, 22 日。出席者：有沢主査他 48 名。

会議事項

1. 工場作業実績表
各社の作業実績について、報告され、質疑応答が行なわれた。
2. 品質、能率向上に資する問題について
加熱炉の能率向上に関するもの 3 件、パススケジ

ルール変更に関するもの2件、ロール孔型改造に関するものその他について報告があった。

3. ガイドの材質、形状およびその寿命について
各工場の、スタンドNo.ごとに、ガイドの材質、形状およびその寿命について報告。
4. 捲取管理について
捲取設備の仕様、管理方法、捲取ミスロールなどにつき、アンケート取りまとめの上報告。
5. クレームの状況とその対策
クレーム処理の組織、クレーム発生状況、防止対策などにつき、アンケートまとめの上報告。
6. 機械設備の修理保全に関する問題
各社のアンケートをとりまとめたうえで報告。

熱経済技術部会

第35回部会 開催日：10月6, 7日。出席者：桑畑部会長他59名。

会議事項

1. 鉄鋼工場におけるエネルギーバランス
記載様式を統一することになった。
2. タイルレキュベレータの使用実績とその劣化防止対策
旭硝子(株)を臨時委員として共同実験の準備を進めることになった。
3. 経済的空気予熱装置に関する研究
4. 工業窯炉のばい煙防止に関する研究
5. 試験加熱炉研究方針について
6. その他

工場見学

トピー工業(株)、豊橋製造所を見学した。

計測部会

秤量分科会

第22回分科会 開催日：11月7, 8日。出席者：中沢主査他47名。

会議事項

提出資料

(1) 共通議題

鉄鋼プロセスの重量管理検討アンケート回答
各社各作業所別 20編

(2) 一般議題

各プロセスの秤量について
製鉄他6編

今回は共通議題として鉄鋼プロセスの重量管理について各社よりアンケートを求め、各プロセスでの管理精度を討議し、問題点を集約した。今後各社で問題点に検討を加え、逐次改善をはかり、その結果を発表することになった。

なお第2日目午後八幡製鉄(株)堺製鉄所を見学した。

鉄鋼分析部会

第19回部会 開催日：10月25～27日。出席者：池上部会長他48名。

会議事項

1. 発光分光分析分科会経過報告

炭素鋼、低合金鋼共同実験結果により分析方法の所間誤差の推定式を提出。高合金鋼共同実験結果は現在とりまとめ中。

2. 蛍光X線分析分科会経過報告

鉄鋼、炭素鋼および低合金鋼共同実験結果の解析中、次回以降粉末試料の分析を検討予定。

3. 鉄鋼化学分析分科会

JIS 鉄鋼化学分析方法の原案作成を2年間位で元素および分析方法に重点をしぼり検討、アンケート結果を参考にして具体的な方針を決定し推進中

4. 鋼中非金属介在物分析小委員会

ヨウ素メタノール法の最適操作条件を決め小委員会法としてまとめた。またこの方法が適用できない高炭素鋼、合金鋼に対し酸溶解法を検討中。

工場見学 東海製鉄(株) 分析センター他一般見学

標準化委員会

ブリキ分科会

第4回分科会 開催日：11月19日。出席者：安藤主査他12名。

会議事項

ISO 事務局の第5回ドラフトと前回ドラフトとの相異点、前回ワーキンググループにおける決定との関係を主体に検討した。その結果をまとめて工技院に提出した。

配管用鋼管規格原案分科会

第2回分科会 開催日：11月4日。出席者：田中主査他23名。

会議事項

提出資料

1. JIS 配管用鋼管規格改正案について

2. ヘン平試験方法の検討

3. シャルピー衝撃試験における試験片の巾の影響

4. 高周波ステンレス電縫管について

提出資料にもとづき、SGPの水圧試験、STPGの繁用寸法、STS、STPT、STPAの厚肉管の偏平試験の代行試験、SUSの高周波ステンレス電縫管の採否、STPLの衝撃試験などについて審議を行なった。

鋼管用熱間圧延低炭素鋼鋼帯規格原案分科会

第2回分科会 開催日：11月1日。出席者：下川主査他19名。

会議事項

1. 鋼種について現在JIS専門委員会で審議中のSPH-C, D, Hおよび現行SS, SMと第1次原案とラップするところがないか溶接協会でもう一度十分検討することになった。

2. 寸法許容差は幅600までは従来のSPHの程度で考え、熱間圧延軟鋼板規格の寸法表4のB許容差で満足

しないところのみ修正を考慮する程度としたいという意見が板メーカーよりでたが結論が得られなかつた。

配管用鋼管規格原案分科会

第 3 回分科会 開催日: 12月 5 日. 出席者: 田中主査 他 24 名.

会議事項

前回までに結論がでなかつた問題点, ベベル形状, STPG の外径許容差, SUS の製品分析値, STPG の常用寸法範囲, SUS の寸法 (厚さ), SGP の厚さ許容差の SGP, 外径許容差, SUS の高周波溶接の採否, SUS の硫酸銅試験, STS, STPT および STPL の厚肉管の扁平試験の代行試験案などを審議し結論を得た。

第 2 次改正案は以上の結論によつて, 日本石油, 石川島播磨, 日本鋼管の各委員が作成する。また解説は幹事会社日本鋼管で作成することになった。なお最終委員会は 2 月下旬に開催する。

石炭成型法委員会

第 1 回委員会 開催日: 11月 21 日. 出席者: 久田委員 他 16 名.

会議事項

1. 新委員名称は石炭成型法委員会とする。
 2. 委員会の業務は次のとおり
- (1) 本設備の保全, 処分などの残存業務を行なう。

(2) 必要と認められる共同研究目的のために設備を利用し試験を行なう。

3. 今後の研究計画を具体化, 推進するため下部組織として共同研究実行小委員会 (委員長: 水野 実) 設備処理小委員会を設置。

クリープ試験技術研究組合

第 38 回技術委員会 開催日: 11月 25 日. 出席者: 平委員長 他 19 名.

会議事項

クリープ試験技術研究組合においては組合自体の全体計画の一環として 40 年度試験, 単式クリープ破断試験機による寸法効果の検討を参加機関において本年度実施中である。その技術委員会が次の議題の下に実施された。

議題 1 昭和 40 年度共同試験の中間報告および報告検討について

〳 2 昭和 41 年度共同試験および今後の動向について

〳 3 その他

以上審議の結果, 議題 1 についてはいずれも 1000 時間を終り 3000 時間に着手する状態であつた。議題 2 については全体計画として 41 年度計画があるが, 当研究組合では行なわずクリープ委員会に引継ぐことを確認した。その他として平委員長よりクリープ委員会における各分科会の動向が報告された。

新 入 会 員 氏 名

(昭和 41 年 10 月 1 日 ~ 31 日)

維 持 会 員		滝沢 昇一	〳	〳	杉野 泰夫	東京化成品(株)名古屋
大洋製鋼(株)	2 口	松室 知視	〳	葺合	木村 篤良	大同製鋼(株)
正 会 員		竹岡 正夫	日新製鋼(株)呉		向井 滋	京都大学工学部教授
石田 秀二	日本鋼管(株)技研	福井 克則	〳	〳	学 生 会 員	
菅原 功夫	〳	野田 義輝	(株)神戸製鋼所	神戸	伊藤 修三	名古屋大学工学部
天満 英昭	〳	住友 義弘	〳	尼崎	大井 淳一	〳
小柳大次郎	〳	芥川 俊雄	日立金属工業(株)安来		谷口 正彦	〳
根本 進	〳	浦島 親行	八幡製鉄(株)技研		渡辺 純夫	〳
荒木 宏	住友金属工業(株)	山田 勝利	東海製鉄(株)		沢田 靖士	東京大学工学部
	和歌山	土居 武雄	アイシン精機(株)		山口 一良	東北大学工学部
桑原 明夫	〳			技開研	木村 準昌	京都大学工学部
杉沢 精一	〳	今村 元昭			下郡 誠一	鉄鋼短期大学
上村 政治	〳	佐野 悦三	竹中製作所		外 国 会 員	
新行内雅博	川崎製鉄(株)千葉	大津 任	耐火煉瓦協会		黄 常 烈	(大韓民国)
					李 照 東	(〳)